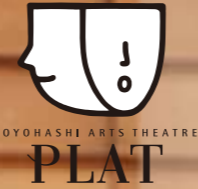


- 2 [水] プラットワンコインコンサート  
山本愛花音『Moment Of My Life』  
たとえば、あなたのその瞬間に寄り添う音楽を。』  
◎PLATアートスペース
- 3 [木]—6 [日] 市民と創造する演劇『階層』◎PLAT主ホール
- 6 [日]—9 [水] 第41回池坊豊橋支部花展  
“光に向かって”つなごう花の心◎PLATアートスペース
- 12 [土] Pink House Studio presents JOIN+Spring◎PLAT主ホール
- 12 [土] 小林公哉 × 成田花南 × 柴田知明による  
パーカッショントリオ“SIGNAL”1st Concert◎PLATアートスペース
- 13 [日] フルーツポンチ◎PLATアートスペース
- 16 [水] プラットワンコインコンサート  
Quintet Azalea『アゼリア・ツアーへようこそ!~音楽の旅路~』  
◎PLATアートスペース
- 18 [金] MGT 第8回演奏会 @PLATアートスペース
- 20 [日] 豊橋素人歌舞伎保存会 第34回定期公演  
◎PLAT主ホール
- 26 [土] 豊橋中央高等学校吹奏楽部 第24回定期演奏会  
◎PLAT主ホール
- 27 [日] 豊橋おやこ劇場協議会  
第469回中高青例会『弟の戦争』  
◎PLATアートスペース
- 28 [月]—29 [火] 豊橋演劇鑑賞会 第289回例会  
無名塾『左の腕』◎PLAT主ホール

- 1 [金]—4 [月] 日本生花司松月堂古流  
東三支部 春のいけばな展  
◎PLATアートスペース
- 9 [土] 和太鼓志多ら presents  
鬼頭孝幸 篠笛ライブ『和気あいあい』  
◎PLATアートスペース
- 10 [日] もりたピアノ教室 Primavera Concerto  
◎PLATアートスペース
- 14 [木] 大学・短期大学・専門学校 進学相談会  
◎PLATアートスペース
- 16 [土]—17 [日] ミュージカルショー&リーディングドラマ  
『ノートルダム・ド・パリ』◎PLAT主ホール
- 21 [木] 大学・短期大学・専門学校 進学ガイダンス◎PLATアートスペース
- 23 [土] WHY Jazz 楽団 meets funk orchestra T.P.O.@豊橋ぶらっと  
◎PLAT主ホール
- 23 [土] フォークソング・ビートルズ・さまざましかパーコンサート  
◎PLATアートスペース
- 25 [月] 立川志の輔 独演会◎PLAT主ホール
- 27 [水] プラットワンコインコンサート辻純佳『歌う 魅せる 寄り添うヴァイオリン』  
◎PLATアートスペース
- 29 [金] 令和4年度東三河高校演劇文化発表会◎PLAT主ホール
- 30 [土] プラット2022年度プログラム説明会◎PLATアートスペース



表紙/立川志の輔 独演会  
裏表紙/岡田利規『階層』  
企画・発行/公益財団法人豊橋文化振興財団  
編集・デザイン/味岡伸太郎+有限公司 STAFF  
令和4年2月発行 54号[隔月発行]



公益財団法人  
豊橋文化振興財団情報誌  
2022年3月-4月  
vol. 54



TOYOHASHI  
ARTS  
THEATRE  
PLAT

PLAT  
CALENDAR  
REVIEWS

CONTENTS

- 表紙  
立川志の輔 独演会
- 2  
INTERVIEW:1  
市民と創造する演劇  
『階層』  
映像演劇、これもまた演劇である。  
岡田利規  
劇場という場所を考えながら観る。  
山田晋平
- 6  
INTERVIEW:2  
立川志の輔 独演会  
落語に合う会場に会えた時は幸せ  
その一つがプラットなんです。  
立川志の輔
- 8  
INTERVIEW:3  
『ロビー・ヒーロー』  
「正しさってなんだろう」と  
一緒に悩んだりしながら  
観ていただけると嬉しいです。  
桑原裕子
- 10  
FOYER  
市民と創造するダンス公演  
『舞踏 豊橋妖怪百物語』  
私は各地の魅力的な  
題材をお借りし、  
創作の第一歩を  
踏み出すのです。  
田村一行
- 12  
INFORMATION  
PLAT  
主催公演情報
- 14  
PURA PURA  
バラコの寄り道ぶらぶら  
桑原裕子  
わらじ何足あってもよし
- 15  
SUPPORT  
TICKET CENTER
- 裏表紙  
岡田利規  
市民と創造する演劇『階層』





岡田——映像演劇を構想したり、作って良し悪しを検討したりする時の尺度が独特で特殊なもので、それは映像演劇を作る時にしかほぼ使わない。映像演劇をやり、またしばらく映像演劇ではない何かをやってから映像演劇に戻ってくると、「この感じ、戻ってきたな」という頭の使い方があります。

山田——空間的なイリュージョンと呼ばれる仕掛けが、だいたい作品には含まれるので、それに対する感性と、フィクションがそこで立ち起こっているか。フィクションがスクリーンの中で完結しているのではなく、観客が居る空間を巻き込んでいるか、この2点のバランスが映像演劇には大事で、そのことを発動する脳の部分がある。それは、普段あまり使ってなく、映像演劇の現場になると

山田——最近、「技術」という言葉を使うのがどんどん難しくなってきたなという感じがするんです。僕と岡田さんは作品を作るたびに、映像演劇力とか、映像演劇における技術、あるいは発想法を一緒に身につけていってるんです。一般的に「技術的な部分を山田が」と言うと、機材調達したり、照明の光量調節をしたりになっちゃうんですが、最近はその前の発想力も技術かもしれないと思い始めて。そうなってくると岡田さんも、映像演劇を成立させるための言葉の技術とか、演技に対する技術とかすべてが発揮されながら作っていく。そういう意味では、一般的な「技術職」という感じではないというか。もっと手前の部分も担っていると思うし、そこを一緒に四苦八苦してやっているという感じはあります。

ことになる。10年たてば、それが10年前の映像になるわけです。今回の話をもらったことで、僕にとっては、映像演劇の可能性を考えるきっかけになりました。

矢作——映像演劇における山田晋平さんの役割は、一体どういうものでしょうか。

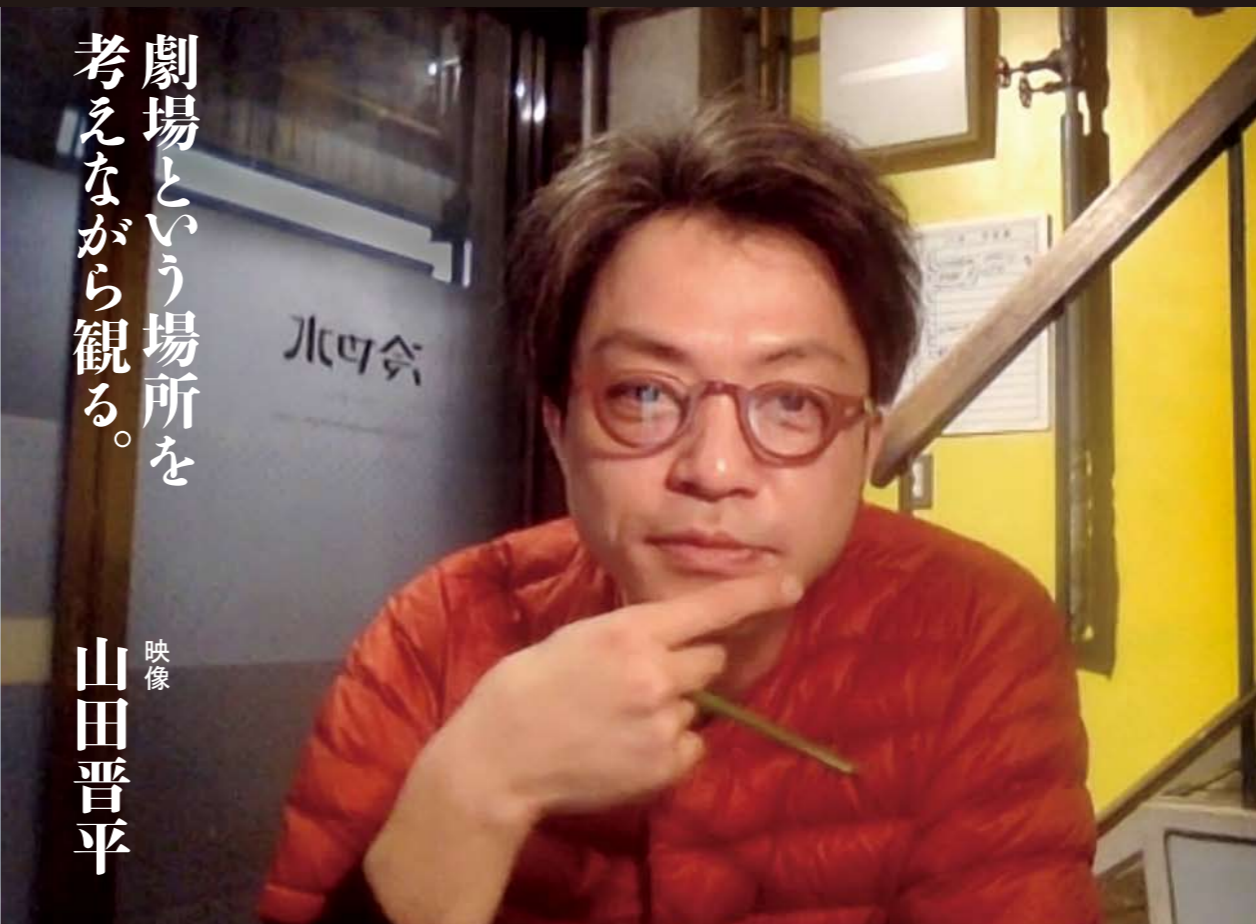
岡田——生身の人間だったら、ただそこにその人が居てくれればそれでいいのですが、映像はそういうわけにいきません。映像が演劇にならないと映像演劇にならないんですよ。映像が演劇になるためのコンセプトというか、どういうことを喋って、どういう空間の設定で上演したり演じるのかを考えるのが僕です。それを実現するために、カメラはここから撮る。映すものはこう設置する、照明はこうやる、という技術的な担当が山田くんです。

矢作——PLATが継続的に行ってきた「市民と創造する演劇」に今回岡田さんは作・演出、山田さんは映像という立場で関わって頂きますが、企画のどこに興味を持って、オファーをお受けいただけたのでしょうか。

山田——基本的に映像演劇シリーズのオファーが来たら、僕は断ることはないです。市民と作ることはやったことないですが、岡田さんだったら一緒に良い新作を作れると思ったので。お断りする気持ちなど、浮かんだことはありません。

岡田——僕も同感です。映像演劇をなるべくたくさんやりたい。そして、市民の方は、いわゆる俳優ではないのかもしれない。でも、映像演劇の映像は記録性があり、結果的にその市民の人たち一人一人のことを記録する

山田晋平[やまだ・しんべい] / 舞台映像作家。演劇やコンテシヨラリ・ダンスを中心に、オペラ、コンサートなど、様々な舞台芸術の上演内で使用される演出映像の製作が専門。近年では、現代美術家とのコラボレーションによるプロジェクト作品や、演劇作家との映像インスタレーションなどの製作も行う。舞台芸術と現代美術のフィールドを横断し、かつ芸術と日常生活の空間的な境界を横断しながら、映像芸術の新たな可能性を探る活動を展開する。20年、愛知大学 文学部 現代文化コース メディア芸術専攻 特任准教授を退職。豊橋市駅前エリアの水上ビルにアトリエ兼住居「冷や水」をオープン。地域に対する芸術普及活動も積極的に行っている。



劇場という場所を  
考えながら観る。

映像  
山田晋平

映像演劇、  
これもまた演劇である。  
岡田利規

作・演出

聞き手 矢作勝義 穂の国とよはし芸術劇場PLAT 芸術文化プロデューサー



岡田利規[おかだ・としき] / 演劇作家、小説家、テェルフイッチュ主宰。活動は従来の演劇の概念を覆すとみなされ国内外で注目される。『三月の5日間』で第49回岸田國士戯曲賞を受賞。小説集『わたしたちに許された特別な時間の終わり』(新潮社)で第2回大江健三郎賞受賞。16年よりドイツ有数の公立劇場ミュンヘン・カンマーシュピールのレパートリー作品演出を4シーズンにわたって務め、20年『The Vacuum Cleaner』がドイツの演劇祭 Theatertreffen の“注目すべき10作品”に選出。18年より『ブラータナー: 憑依のポートレート』をバンコク、パリ、東京で上演し、第27回読売演劇大賞選考委員特別賞を受賞。20年戯曲集『未練の幽霊と怪物 挫波 / 敦賀』(白水社)を刊行し第72回読売文学賞 戯曲・シナリオ賞を受賞。

3月3日[木]~3月6日[日]【全25回】

作・演出=岡田利規

映像=山田晋平

出演=オーディションで選ばれた一般市民 / 米川 幸リオン

会場=PLAT主ホール

市民と創造する演劇

『階層』

—テェルフイッチュの〈映像演劇〉の手法による—

そのリハビリから始まり、「ああ、こうだった」と、感覚を研ぎ澄ますところから始まります。

矢作——今回、オーディション時の市民の人たちに対する印象はいかがでしたか。

岡田——おもしろい人がたくさん居て、しかもそのベクトルがいろいろ。だから選考は結構時間もかかり悩みましたが、そういう人たちと出会えて、おもしろかったです。

矢作——山田さんは、昨年度桑原裕子さんの市民と創造する演劇『甘い丘』のドキュメンタリーを撮影し、映像作品として残していく中で、普段あまり俳優活動や演劇活動をしていない人たちと作品創りをするという場をどう見ていたのでしょうか。

山田——出演者はプロではない一般の方。でもやはり、桑原さんはいつもと同じように作品創りに取り組んでい

た。ただの発表会ではなく、誇りを持って、観客に観てもらうものとして作り上げるというプロセスがその中に含まれていました。その雰囲気は僕が普段やっている現場と変わらない。最後に作品にしていく真剣さというか。最初と最後の落差がおもしろいです。始まった時は、出演者、市民の方々に乗って来てもらうようにガイドというか、スロープのなめらかさみたいなものがあるんですけど。最後は同じ到達点に行くところで、カーブがグワッと上がるんだけど、そこはみんなで同じ坂を登ってくような経験をしてる、というところが、普段の現場と共通するところもあるし、ちょっと違うところですね。

矢作——映像演劇は、これまではギャラリーや美術館とか、美術作品が展示されるような空間で行われてきましたが、今回PLATの主ホールという、客席がある空間



を使って上演することによって、どういうことが可能になるのでしょうか。

岡田——映像演劇というのは劇場でやる普通の演劇とは違うが、これもまた演劇であるとしてやっていたものを、結局劇場でやるというのが我々には逆に新しいことです。一番違うのは、劇場というのが、舞台の上で何かが行われお客さんは観客席に座りそれを見るという空間で、その作法にある程度のつとりつつ、でもその作法にはない部分、「これは演劇である」と我々が思っているものをやるのが今回の作品ならではの、『階層』はそれを生かしたものになっているはずで、今の構想段階ですが。

山田——美術館は、美術館だと知って人が来るし、劇

場も劇場としてそこに人が来るわけですが、美術館の方が、そこが「美術館」という場所であることを意識させることが難しい。つまり、場所がすごく無個性というか、意味を持たない空間として使い勝手がいい。一方で、主ホールみたいな劇場は、どうしたってそこが劇場だという見え方をするので、そのことをうまく作品に取り込めるチャンスが大きいと思っています。つまり、「自分は今劇場に居る」と意識しながら作品を観るということです。演劇は普通、舞台上でフィクションが完結します。その限りにおいて、劇場に居ることを意識しながらフィクションを味わうということはあまりないと思うのです。それは、美術館ではあまりやりたいと思わないのですが、劇場だとやってみたいと思うのは、我々が演劇人だからかも。↑

そういったことも含めて、劇場という場所について、考えながら見るができるといいと思っています。

矢作——岡田さんは、劇場の場所が異なることによって、作品創りに向かう意識やスタンスはどう変わっていくのでしょうか。

岡田——演劇を作る考え方はもちろん共通しているし、蓄積して上手になりはする。それを観てくれる人にとっては、それを観た時のある作品そのものだけだと思うのですが、僕にとってはその作品を作っている期間、どこで過ごしていたかが重要なのです。それは、豊橋とか、ハンブルクとかという場所だけではなく、一緒に働いていた人とかと結びついていて、それがプロジェクトごとに違うから、それぞれが1つの人生みたいな感じがするん

です。おのずとそれに影響を受けながら、それぞれのプロジェクトをやるのは楽しいのです。映像演劇に取り組むこと自体が楽しいけど、熊本、札幌でやり、そして今度は豊橋でもできるのを、すごく楽しみにしています。

矢作——山田さんも映像作家として、演劇作品に限らないいろいろな作品創りもされていると思うのですが、場所によっての作品創りの違いについてお聞かせください。

山田——僕は意識的に、自分を場所に対して開いて、何か得てやろうということはないです。ただ、滞在制作はやはり面白い。例えば札幌で滞在制作をして、岡田さんと出演者の皆さんと同じ宿泊施設に泊まって、毎晩のようにお酒を飲みながら、関連する映画を観たりする時間があるのは、濃密ですよ。イメージを共有しや



僕たちが映像演劇でやろうとしていることは、観客がいる“その場所”でフィクションを起こす、ということ。



すいし、アーティスト・イン・レジデンスで作品を作るというのは面白い。短時間でものを作ることに適したフォーマットだなと思います。今回僕は自宅から通うので、僕だけがレジデンス組じゃないのが、若干残念です。

矢作——今回の『階層』という作品はどういったものになるのでしょうか。

岡田——あなたが居るのはちょっとだけ別の世界で、演劇が行われている。それを、劇場という場所で垣間見るということをするんです。それを通して、自分が生きている現実とその作品をオーバーラップさせると、おもしろいはず。現実にはSFのようなパラレルワールドがあるという意味ではないが、『階層』という作品は、自分が属してない世界で成立している演劇を見る、ということを映像演劇の手法を使って実現しようとしているので

す。つまり、観客の皆さんが、この『階層』という作品を観る時に、それは何を見るかという、映像演劇の中で行われるパフォーマンスが、来てくれたお客さんに向けてられているのではない。別の誰かというか、観客の皆さんが属している世界とは、別の世界に向かって演じられているパフォーマンスを垣間見るものになるのです。経験は、なんかしらの意味で現実とオーバーラップした時に、観る人の体験として意味のある作品になる、はずです。

山田——前提として、『階層』というタイトルが最初にあったわけではないのです。この空間の使い方のイメージがすでにあり、空間というか映像の使い方とかプロジェクションの仕方、それから観客の居方も含めたアイデアをもとに、『階層』というテーマとタイトルができてき

ているわけです。この空間の使い方が、観客をどこかの階層に自分が居ると、いや応なく思わせ、どうやってその作品を見るかという仕組みを、自分の体の状態も含めてさまざま作っています。そんな演劇はなかなかないと思うので、それを楽しんでもらえたらなと思っています。

矢作——最後に『階層』を観るお客様に、メッセージをいただけますか。

岡田——映像演劇を経験したことがない方には、映像演劇を言葉で伝えるのは無理なんですね。自分では言葉にできていると思っているのですが、それでわかるようなものではないとも、薄々わかっています。つまり、映像演劇は、経験したことないものを体験すること。それは何かを味わってほしいのです。それは映像演劇を使って生み出せるフィクションを通して与えられる感覚、思

考をやることのできるものとして僕はいつも楽しく映像演劇を作っている。興味があったら、それは、観に来てほしいですね。

矢作——とにかく、一度見てみたいとわからないということですね。

山田——豊橋では、『風景、世界、アクシデント、すべてこの部屋の外側の出来事』を上演/上映したのですが、あれを見た人も全然違う体験をすることになるので、来てほしいという以上付け加えることはありません。映像演劇でないと味わえない、ちょっと変わった料理なので、良かったら食べに来てください。どこでも出してないメニューを召し上がっていただけたらと思います。

矢作——岡田シェフ、山田シェフの腕を、目いっぱい堪能させていただきたいと楽しみにしています。



## 立川志の輔

出演

落語に合う会場に出会えた時は幸せ  
その一つが、PLATなんです。



4月25日[月]18:30開演

出演=立川志の輔

会場=PLAT主ホール

古典、新作問わず、  
落語に新しい息吹を吹き込む

立川志の輔  
独演会

立川志の輔[たてかわしのすけ]／昭和29年、富山県射水市生まれ。明治大学在学中は落語研究会に所属。卒業後、劇団、広告代理店を経て、昭和59年に立川談志門下に入門。平成2年5月、立川流真打に昇進、古典から新作まで幅広い芸域で知られる。全国各地のほか、定期的に海外公演も行っている。平成19年文化庁芸術選奨文部科学大臣賞、平成27年紫綬褒章受章、第66回日本放送協会放送文化賞を受賞するなど、数多くの受賞歴を持つ。新作落語「歓喜の歌」が映画化。平成31年岩合光昭監督「ねことじいちゃん」では初主演を果たす。NHK長寿番組「ガッテン!」は27年間司会者として、文化放送「志の輔ラジオ落語DEデート」ではパーソナリティを務める。

PLATでもおなじみ、落語家の立川志の輔さんの年始は東京・渋谷での『志の輔らくご』が恒例になっています。その終演後にお邪魔して、お話を伺いました。『志の輔らくご』今年のメインの演目は、日本中の海岸を歩測して「大日本沿海輿地全図」を作った伊能忠敬の生涯を描いた『大河への道』。中井貴一さん主演の映画版も5月に公開を控えています。実は、この落語を創作するのに10年かかったとか。その時間は、PLATでの『立川志の輔独演会』の歴史と重なります。そんな情報を枕に、志の輔師匠のインタビューをお届けします!

**志の輔**—— 10年経ったんですね。2013年、開館した年からだったのか。PLATの元シニアプロデューサーさんから、ホールができるずっと前からあんな夢、こんな夢を聞かせてもらったのを思い出します。毎年伺うたびに、劇場の通路に貼ってあるポスターの数々を見て、うっとりするぐらいに素晴らしい歴史を感じます。そして「僕もここでやったんだよ」と腰を抜かすんです。

——— ありがとうございます。この10年、志の輔さんにとってはどんな時間でしたか?

**志の輔**—— 落語というものを演劇の劇場でやっても成立するんだ、そのことが全国に広まった時間だったように思います。新たに落語をやってくれる劇場・ホールが右肩上がりが増えてきました。そして、この会場は無理かなというところなくなりました。落語はマイクを1本立てて、座布団に明かりを当てるだけ、演劇と比べたら非常にシンプルな建て付けですが、実は最も難しいことなんです。この空間で2、3時間聴いていても疲れず音作りは音響さんにとってもものすごく大変なこと。明かりも陰気じゃダメだし、派手でも疲れる。そういう意味では劇場スタッフさんの技術がとても向上していると思います。僕の落語家生活40年は、金屏風と緋毛氈をやめてもらう歴史。落語と言えばかつてはどこに行っても赤い毛氈に金屏風でした。でもこれがお客様には一番つらい。演者が入れ替わり立ち替わり出てくるような落語会なら目先も変わりますが、僕みたいに一人でやる落語会では疲れてしまうんです。ですから毛氈は濃紺に、背景は鳥の子の白い屏風にさせていただいて、光を柔らかく当てて、お客さんの目が、耳が疲れないうちにお願ひしますということを書いて歩いた10年でした。

——— 劇場落語が定番になっていった10年だったんですね。

**志の輔**—— そうですね。そうなんですけど実は落語家として、落語をやしやすい劇場・ホールはどんどんなくなっている。つまりステージの方が高くて、客席を見下ろす劇場がなくなっているんです。舞台より客席が高いと、お客様にとって非常に見やすい。けれど人間は見下ろすとなかなか笑えない。見上げると笑えるんです。演劇にとって、お客様にとって良い状態は落語にとってはあ

まり良いとは言えないということです。日本の劇場・ホールはオペラやクラシックができることを基準にしている気がしますが、(日本の伝統芸能がやりやすい)小さくて素晴らしい空間も考えてくれるといいんですけどね。

昔は落語を300人の会場でやると言えばすごいと言われ、そこが満員になったら驚かれたぐらい狭い空間でやっていました。PLATも広いと言えば広いけど、その中でも客席との距離が近く、一体感のあるやりやすい会場です。10年前は豊橋のお客様のことがわからないから、落語に入るまでの枕がものすごく長かったと思うんです。それがだんだん短くなっていくのは、PLATのお客様が落語が何たるか、志の輔がどういふ落語をやるかを多分わかってくださったから。そして今では客席数以上のお客様が聞いてみたいと思ってくださるようになった。そうすると、こちらも今やりたいことをやれる。どのネタを持って行ってもお客様がちゃんと反応してくださるのは、とてもうれしいことです。

——— 志の輔さんは落語会を行った街を体験してから次の街に行かれます。落語家さんの中には、落語会に複数で出演されて、ご自分の時間が終わるとお帰りになるケースも多いようですね。

**志の輔**—— おかげでこの10年、豊橋カレーうどんのお店もいろいろ行きましたが、豊橋にはまだまだたくさん美味しいお店があると聞きます。そのためにも、どうぞこれからもよろしくお願ひします(笑)。僕の場合は寄席で育っていないんですよ。師匠の談志が一人で僕を育ててくれた。僕は最初から独演会をやっていたので、この2時間半、3時間をどうやったら自分の笑いの世界にできるか、お客様が満足して帰ってくださるかばかりを必死に考えてきた。だから逆に大勢の落語家の中で20分だけやるということがすごく難しい。だからここの空間に出会えたときは幸せだし、PLATに出会えたことは本当に感謝しています。今年はどういふふうにお客様との距離を縮めていこうか考えるのが楽しみです。

——— 愚問かとは思いますが、10年目、演目的には何かアイデアはありますか。

**志の輔**—— それはもう前日まで考え続けているので。そしてそれまでもいろいろな街でその日その時にしゃべりたいことをしゃべる。その積み重ねで春に豊橋に伺うわけです。例えばお正月明けから、なんとも言えない嫌な空気が広がってきています。コロナですよ。これがどうなるかわかりませんが、そんな悲しいことまで思いながら演目を考えることは人生で初めて。これまでの経験からしても、落語会が中止になる場合もあります。そんなネタ選びですから非常にスリリング。でも新幹線に乗りながら一生懸命に考えますので、お客様にはどうぞ万難を排してPLATに足を運んでいただけたらと思います。10年目の、めでたさを表現できるようなプログラムにしたいなと思っています。

取材・文=今井浩一



# 『ロビー・ヒーロー』

アカデミー賞脚本賞受賞『マンチェスター・バイ・ザ・シー』の

ケネス・ロナーガン執筆

『ロビー・ヒーロー』の日本初演。

5月28日[土]・29日[日]13:00開演

作＝ケネス・ロナーガン

翻訳＝浦辺千鶴

演出＝桑原裕子

出演＝中村 蒼、岡本 玲、板橋駿谷、瑞木健太郎

会場＝PLAT 主ホール



## INTERVIEW : 3

「正しきってなんだろう」と一緒に悩んだりしながら観ていただけると思います。

桑原裕子 演出

聞き手 矢作勝義 穂の国とよはし芸術劇場PLAT芸術文化プロデューサー

桑原裕子〔くわばら・ゆうこ〕／劇団KAKUTA主宰、俳優・劇作・演出を務める。近年の出演作として、白井晃演出「ペール・ギュント」、福原充則脚本・演出「俺節」「忘れてもらえないの歌」、松尾スズキ演出「シブヤデアイマショウ」、土田英生作・演出「徒靴に水やり」など。2007年KAKUTA「甘い丘」で、09年に第64回文化庁芸術祭・芸術祭新人賞（脚本・演出）受賞。15年「痕跡」で第18回鶴屋南北戯曲賞受賞。18年「荒れ野」が第5回ハマカワ「悲劇喜劇」賞、19年第70回読売文学賞戯曲・シナリオ賞受賞。また、劇団作品「ひとよ」が白石和彌監督で映画化された。18年穂の国とよはし芸術劇場PLAT芸術文化アドバイザーに就任。

矢作—— 今回の『ロビー・ヒーロー』は海外戯曲の演出ですが、新国立劇場からお話をいただいたとき、どのように思われましたか。

桑原—— ストレートプレイで翻訳作品を演出するのは初めてです。私は脚本と演出をセットで依頼されることが多いので、他の人の戯曲を演出すること自体が久しぶりなのですが、新国立劇場プロデュースの海外戯曲の演出ということもあり、最初は「できるかな…」と気圧されるような感覚がありました。でも、この『ロビー・ヒーロー』の翻訳の初稿を読ませていただいたら、現在の感覚に完全にリンクするような内容だったので、夢中になって読んでしまって。不安よりもやりたいという気持ちが勝ちましたね。

矢作—— この作品のどんなところに魅力を感じたのでしょうか。

桑原—— まず、登場人物たちが魅力的でした。ケネス・ロナーガンの戯曲がほんとうに読むほどに面白い。『マンチェスター・バイ・ザ・シー』とか、彼が脚本を担当した映画もいくつか観たのですが、うだつの上からなごや日常に対する鬱屈が、ものすごく私たちと地続きのところにある。そこから飛び出して冒険していくような話ではなくて、やり取りのなかで自己と向き合っていくような内容です。彼の脚本は、ワハハと笑うようなギャグではなくて、よくよく聞かないと逃してしまうような、皮肉や暗さも入り交じった笑いで描かれている。でもそれを笑いと言ってしまうと違うなって思うくらい、表面的ではない見せ方なのです。今回、人の気持ちや、人間のものを見つめられるというところに信頼をおいて私にお声がけくださったと小川絵梨子さんから伺い、とても嬉しかったし、真摯に向き合いたいと思いました。

最初は大変なのではないかと思いましたが、いわゆる海外戯曲としてイメージする、とっつきづらさは全くありませんでした。短いやり取りを積み重ねていくことの多い日本の現代口語演劇と違い、海外戯曲ならではの台詞量で、お互いの意見や、生まれや、考えについて語り合うところが多く、議論をするつもりがなくても議論になっているような濃密な会話劇です。しかし、実際交わされる会話は、ちっぽけな自分と向き合うジレンマや、言葉選びに神経を削がれる感覚が「あるある」や「わかるわかる」と共感できるので、今この作品を上演するのはほんとうに意味があるし、ぜひ様々な人たちに観てもらいたい作品だと思いました。

矢作—— 海外のとあるマンションのエントランスロビーを舞台に、4人の登場人物の日常的なやりとりが面白い作品ですね。

桑原—— そうですね。日の当たらないタイプというか、社会的には中から下みたいな層にいる市井の人の話です。本来は通過地点であるロビーという場所に留まっている人たちを描いている作品ですが、自分の作品や好きなものと肌感覚が似ているような気がします。今は大金持ちになって宇宙に行く人もいるけど、現代社会を

生きる人の多くはこんな吹き溜まりのロビーのような場所で、抜け出したいけれども抜け出せない人たちだと思うんですよ。

私がこの作品に出会ったのは、政治やコロナ禍に対しての国の在り方に葛藤していた時期で、この2年間、正しく生きなきゃという焦燥に駆られてきました。劇団活動だけでなく、オリンピックに賛成するか反対するかどうかが、人種差別やLGBTQに対する発言ひとつひとつにも、正しいのか間違っているのかをすぐ考えなければいけないことに焦りみたいなものがあり、すごく疲れていました。この作品は、「正しきって何だろう」と葛藤している人たちの話なので共感するし、一緒に悩んだりしながら観ていただけだと思います。希望を探すような部分もあるし、焦らなくて良いということも感じられる。だから実はとても見やすい作品だし、東京だけでなく、豊橋や兵庫、岡山の方にも楽しんでいただけるのではないかと思います。

矢作—— 作品をつくる上での期待やチャレンジしたいと思うことはありますか？

桑原—— 今回、めちゃくちゃ面白うだと思えるキャスティングになりました。見せ方は演出家として私が考えなくてはいいませんが、登場人物が4人しかいないので色々話し合いながらつくっていきたいと思います。普段、自分が主宰しているKAKUTAの芝居は人数が多く、全体の構成を意識することが多いのですが、今回はそれぞれの心の中の移り変わりを、細かく、それこそ1行レベルで変わる瞬間を俳優と一緒に追いかけていくような作業をやりたいです。俳優の中でのそれぞれの意識の持っていき方や、自分と役との共通点をどんどん見つけて、心の中で常に喋り続けている感情と共鳴する箇所を一緒に探っていくような稽古が出来たらと思っています。

この作品では翻訳の浦辺千鶴さんと一緒に訳を探ったり、東京ではプレビュー公演もさせていただけるのですが、信頼できるスタッフと時間をかけてとても贅沢にやらせてもらえると感じています。だからと言って気負うというよりは、今は作品を面白くすることに純粋にわくわくしています。

矢作—— それでは最後に、豊橋のお客様にメッセージをお願いします。

桑原—— 豊橋のお客様は、今までたくさん濃密な会話劇をご覧になっていると思うので、この作品はきつと楽しんでいただけたらと思います。普段私が豊橋で上演しているような大人数のお芝居とはまた違うので、少しコアな部分や、色の違いを楽しんでいただけたら嬉しいです。社会派の一面もありながら、会話そのものが面白い作品なので、俳優の魅力をちゃんと引き出して、飽きずに観ていただけるように仕上げたいと思っています。

矢作—— ありがとうございます。



『舞踏 豊橋妖怪百物語』を上演し早いものでもなく3ヵ月が経とうとしています。2018年の出会い以来、私の周りを片時も離れようとしなかった豊橋妖怪達は、作品の終了と共にそれまでの日々が嘘であったかのように綺麗さっぱりと私の元から立ち去り、私は物足りなさを感じながらも数年ぶりに平穏な日常を取り戻すことができました。彼らと過ごした時間はまさに夢のようで、今となっては懐かしい出来事です。

…と、なるはずでした。ところが「お前はまだまだ私達を踊っていないぞ」と不機嫌な妖怪達は今も私の傍らで好き勝手に遊んでいます。字を書く度に腕借り天狗が私の字の下手さを心配し、道端で程よい石を見かければその石を石巻山に届けたいという気持ちにかられます。目を瞑ると私はいつでも彼らと会話を始め、お互いの存在を確認しあうのです。豊橋妖怪達への友情と愛情はいつそう深くなり、その呪縛は強くなるばかりです。

今日まで様々な場所でその土地を題材とした市民参加作品等の創作をさせていただいてきました。それは余所者がその場所の歴史や出来事、社会に深く入り込ませていただくという大変光栄な体験です。各地には個性的で素晴らしい伝統芸能や文化・神事・物語・人物が溢れています。ですがそれらの表面的な部分だけを簡単に借用し題材として扱うわけにはいきません。

たとえ私がどんなに八戸に伝わる“えんぶり”を摺る方々に心打たれたとしても、うきは市の装飾古墳に失った命の物語を見出だしたとしても、豊岡で大昔に持ち

帰られた不老不死の実に常世の匂いを嗅いだとしても、夕暮れの川根本町に響く太鼓の祈りが大井川を遡って山を越えて行く様子を垣間見たとしても、高知で自由民権運動に現われた骸骨が微笑んできたとしても、土佐清水で生まれたジョン万次郎の流離譚にかつて経験したことのないような浪漫を感じたとしても、そして豊橋の通りかかった書店で偶然手にした書物から、百体の妖怪達がいつせいに私の目の前で踊り始めたとしても、そこに自分がその題材を踊るための由緒が存在しない限り、私はその題材を扱うわけにはいかないのです。

2018年にアウトリーチやワークショップのために豊橋を訪れた際、わずかな空き時間を利用してPLATの大橋さんが計画してくださったのが『豊橋妖怪百物語』の著者・内浦有美さんご本人による「豊橋妖怪ツアー」でした。内浦さんの解説と朗読を聴きながら、十王堂の地獄絵を旅し、お弓橋の怪火を想像する。嵩山の蛇穴を懐中電灯片手に探検し、石巻山の背を高くするため麓で拾った石を山頂にお供えする。豊橋の日常のすぐ隣には興味深く不思議な世界への扉が溢れていました。この出来事が後の作品創作の根幹となったことは言うまでもありません。このように私を異世界へと誘うかけがえのない案内人達の存在こそが、私を踊りへと導

振付・演出・出演  
**田村一行**  
私は各地の魅力な題材をお借りし、創作の第一歩を踏み出すのです。

いてくださるのです。

自分に都合よくだけ題材を利用しないというためには、どのように題材と向き合えばいいのでしょうか。今はその模索こそが作品を創るという行為と直結しています。その土地の方々と、その土地の題材を元に作品を創作していくということは、私にその作品の由緒を少なからず与えてくださることになると感じています。そうして私は各地の魅力的な題材をお借りし、創作の第一歩を踏み出すのです。

市民参加作品で踊る皆様は、そこにしかない時間を背負い、そこにしかない特権的な風景を既に纏っています。そこにある見えない風景・感覚こそが身体の密度となり、それは余所者には決して真似することのできない個性です。ここでは「舞踏をしよう」とか「表現をしよう」という考えは必要ありません。「上手に踊ろう」と考えない所でしか出会うことのできない興味深い身体というもの存在します。逆に表面的な動きや形を真似しただけでは、「それっぽい何か」で終わってしまうこともあるのです。表現・芸術・踊り・舞踏は全ての人の中にあるものです。私の役目とは、既に持っている他者の個性、身体の魅力に指を指すだけに過ぎません。そして皆さんの個性溢れる踊りから、私は由緒を盗むのです。

私達は今とんでもない時代の狭間にいるのかも知れません。ですが、人の歴史とはそもそもこのような日々の

連続だったのではないのでしょうか。今まさに人類は見えない怪物と戦っています。最近の騒動もまたいつの日か物語になるのかも知れません。『豊橋妖怪百物語』は文字通り百の話しかからできています。その一つ一つが過去から現代へ、現代から未来へと続くその土地の物語です。それは祖先の話でもあれば、すぐそばの場所の話でもあります。そこで暮らす人にとってどれも身近に感じる自分の物語です。そこにはどの話を取り上げても、一つの舞台作品を創作できるほどのドラマが存在しています。

この度はタイトルを『舞踏 豊橋妖怪百物語』としたため、一つの妖怪にだけ注目するのではなく、私自身が『豊橋妖怪百物語』という本の中を旅するという構成の作品となりました。しかし私が旅の中で出会う事のできた妖怪は豊橋妖怪のほんの一部です。今後もっと一人一人の妖怪と、一つ一つの物語と深く向き合う機会を作らねばなりません。それはあの世界に一度足を踏み入れてしまった人間の運命でもあるのです。

公演が終わり気付いてみると、私を取り巻くモノの数が増えています。一緒に踊った出演者が妖怪に混ざって私の傍らで何かを楽しみに待っているようです。彼らもまた豊橋という不思議な場所に棲む妖怪だったので。皆、まだかまだかと目をキラキラさせています。そして私はその姿が愛おしくてたまらない。

FOYER



2021年11月21日[日]  
振付・演出・出演＝田村一行  
出演＝オーディションで選ばれた市民/  
小田直哉、藤本梓／内浦有美、村田青水(薩摩琵琶)  
令和3年度公共ホール現代ダンス活性化事業

市民と創造するダンス公演

# 『舞踏 豊橋妖怪百物語』

過去から現代へ、現代から未来へと続くその土地の物語

田村一行[たむら・いっこう]／日本大学芸術学部卒。1998年大略駝艦に入艦。藤赤見に師事。以降、大略駝艦全作品に出演。2002年、『雑踏のリベルタン』を発表。同作品により第34回舞踊批評家協会新人賞受賞。2008年文化庁新進芸術家海外留学制度によりフランスへ留学。地域の文化や風土を題材とした作品の創作にも意欲的に挑み、独自の作品を発表し続けている。小野寺修二、宮本亜門、白井晃、渡辺えり、笠井淑、ジョセフ・ナジ、小松原庸子の舞台など客演も多数。また、子供から高齢者まで幅広い対象者への舞踏ワークショップ・アウトリーチを各地で展開し、好評を得ている。11年より(一財)地域創造「公共ホール現代ダンス活性化事業」登録アーティスト。





### 託児サービス対象公演

要予約。生後6ヶ月以上。  
お一人様500円。お申込み、お問合せはプラットチケットセンターまで

### チケットの購入・お問合せ プラットチケットセンター

●劇場窓口・電話0532-39-3090【休館日を除く10:00-19:00】  
●オンライン<http://toyohashi-at.jp>【24時間受付・要事前登録】

### U25・高校生以下割引で案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。  
●料金＝U25[25歳以下]:公演ごとに指定する席種の半額/高校生以下:1,000円●購入方法＝各公演の一般発売初日から取扱い。●その他＝本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。座席の指定はできません。要・入場時本人確認書類提示。一部例外あり。詳細は各公演チラシ・HPにて。

### 新型コロナウイルス感染症予防対策

●チケット販売＝感染予防のため発売初日の窓口販売はなし。  
翌日以降残席がある場合は窓口販売あり。  
※その他、最新情報は劇場ホームページからご確認ください。

立川志の輔 独演会



とよはしアートフェスティバル2022  
大道芸 in とよはし



『セールスマンの死』



『ロビー・ヒーロー』



オフィス300『私の恋人 beyond』



**3/3 [木]** 14:00/15:00/16:00/18:00/19:00/20:00  
**3/4 [金]** 11:00/12:00/14:00/15:00/16:00/18:00/19:00/20:00  
**3/5 [土]** 11:00/12:00/13:00/14:00/18:00/19:00  
**3/6 [日]** 11:00/12:00/14:00/15:00/16:00

### 市民と創造する演劇『階層』

一ツエルフィッチュの(映像演劇)の手法による **好評発売中**  
演劇作家・ツエルフィッチュ主宰の岡田利規と、舞台映像作家の山田晋平による新しい演劇の形である『映像演劇』の手法を活用した作品を、オーディションで選ばれた市民と共に創り上げます。

●作・演出＝岡田利規 ●映像＝山田晋平 ●出演＝オーディションで選ばれた一般市民/米川 幸リオン ●会場＝PLAT主ホール ●料金＝【日時指定・整理番号付】一般1,500円、U25 700円

【関連事業】

**3/5 [土]** 16:30～17:30

### 岡田利規・山田晋平 トークイベント

●会場＝創造活動室A ●料金＝無料 ●定員＝先着40名 ●対象＝市民と創造する演劇『階層』のチケットをお持ちの方 ●申込方法＝①プラットチケットセンター電話・窓口(0532-39-3090)②劇場ホームページの専用申込フォームより申込。

**4/25 [月]** 18:30 開演

### 立川志の輔 独演会

古典、新作問わず落語に新しい息吹を吹き込む、大人気の立川志の輔による独演会です。

●会員先行＝WEB抽選のみ。/申込期間＝2月18日(金)10:00～2月28日(月)19:00※申込方法はホームページでご確認ください。●一般＝3月19日(土) ●出演＝立川志の輔 ●会場＝PLAT主ホール ●料金＝[全席指定]一般4,200円ほか

**4/30 [土]** 14:00 開演

### プラット2022年度 年間プログラム説明会

2022年度、プラットがお贈りする主催・共催プログラムをご紹介します。

●会場＝PLATアートスペース  
●料金＝無料(要整理券または劇場ホームページから要申込)

※整理券はプラットチケットセンターにて4月1日(金)より配布予定

**5/4 [水・祝]・5/5 [木・祝]**  
とよはしアートフェスティバル2022  
大道芸 in とよはし

ゴールデンウィークは、世界で活躍する大道芸人が豊橋に大集合!  
●会場＝PLAT ●料金＝無料※詳細は決まり次第、ホームページで公開いたします。

**5/13 [金]** 18:00 開演  
**5/14 [土]** 12:00 開演/17:00 開演  
**5/15 [日]** 13:00 開演

### 『セールスマンの死』

世界中の名優が演じ続けてきたアサー・ミラーの代表作『セールスマンの死』。舞台に映像に充実した活動を続けるぎないポジションを築き上げた段田安則。65歳を迎える節目の年に更なる飛躍を求め、いよいよ演劇界の金字塔に挑む!

●会員先行＝2月26日(土) ●一般＝3月12日(土) ●作＝アサー・ミラー ●翻訳＝広田敦郎 ●演出＝ショーン・ホームズ ●出演＝段田安則、鈴木保奈美、福士誠治、林遣都/前原滉、山岸門人、町田マリー、皆本麻帆、安宅陽子/鶴見辰吾、高橋克実 ●会場＝PLAT主ホール ●料金＝[全席指定]一般11,000円ほか

【関連事業】

**4/16 [土]** 14:00～15:00

### トークイベント

PLATとまちなか図書館のスタッフが作品の見どころについて話します。

●会場＝豊橋市まちなか図書館 ●料金＝無料 ●定員＝先着50名 ●申込方法＝2月26日(土)10:00より受付開始①プラットチケットセンター電話・窓口(0532-39-3090)②劇場ホームページの専用申込フォームより申込。

**5/28 [土]** 13:00 開演

**5/29 [日]** 13:00 開演

### 『ロビー・ヒーロー』

アカデミー賞脚本賞受賞で話題となった映画『マンチェスター・バイ・ザ・シー』のケネス・ローナーガンが執筆した『ロビー・ヒーロー』。PLAT芸術文化アドバイザーの桑原裕子を演出に迎え、日本初演でお送りします。

●会員先行＝3月5日(土) ●一般＝3月19日(土) ●作＝ケネス・ローナーガン ●翻訳＝浦辺千鶴 ●演出＝桑原裕子 ●出演＝中村蒼、岡本玲、板橋駿谷、瑞木健太郎 ●会場＝PLAT主ホール ●料金＝[全席指定]S席5,500円、A席4,000円ほか

共催



市民と創造する演劇『階層』  
一ツエルフィッチュの(映像演劇)の  
手法による一

**6/10 [金]** 19:00 開演  
**6/11 [土]** 14:30 開演

### PLATダンス・レジデンス 作品集

これまで豊橋での「ダンス・レジデンス」にて滞在制作をおこなってきたアーティストによるダンス作品を上演します。

●会員先行＝4月16日(土) ●一般＝4月23日(土) ●上演作品＝京極朋彦『カイロー』、BATIK『春の祭典』、富士山アネット『Unrelated to You』 ●会場＝PLATアートスペース ●料金＝[全席自由・日時指定・整理番号付き]一般3,500円ほか

**6/18 [土]** 14:00 開演  
**6/19 [日]** 12:00 開演

### 『黄昏』

1978年に初演、以来日本を含む世界各地で上演され、ゴールデングローブ脚本賞を受賞した作品が豊橋に初登場!

●会員先行＝3月12日(土) ●一般＝3月19日(土) ●作＝アーネスト・トンプソン ●翻訳＝青井陽治 ●演出＝鶴山仁 ●出演＝高橋恵子/潮奈じゅん、松村雄基/石田圭祐ほか ●会場＝PLAT主ホール ●料金＝[全席指定]一般8,800円

**6/25 [土]** 13:00 開演

### イクウメ『関数ドミノ』

人間の妄想が、現代社会を魔界に転じさせてしまう恐怖を描いた本作。2005年の初演から徐々に進化を続けてきた『関数ドミノ』をアップデートした2022年度版としてお届けします。

●会員先行＝4月16日(土) ●一般＝4月29日(金・祝) ●作・演出＝前川知大 ●会場＝PLAT主ホール ●料金＝[全席指定]S席5,800円、A席4,000円ほか

**7/13 [水]** 19:00 開演

**7/14 [木]** 13:00 開演

### オフィス300

### 『私の恋人 beyond』

芥川賞作家・上田岳弘の同名作品をベースに、渡辺えり流の切り口で贈る音楽劇!

●会員先行＝4月23日(土) ●一般＝5月7日(土) ●脚本・演出＝渡辺えり ●原作＝上田岳弘『私の恋人』(新潮社) ●出演＝小日向文世、のん、渡辺えりほか ●会場＝PLAT主ホール ●料金＝[全席指定]S席7,500円、A席5,500円、B席4,000円ほか

### 若手音楽家育成事業

### プラットワンコインコンサート

「若い音楽家には活躍の場を、お客様にはより音楽を楽しめる機会を」と企画されたPLATオリジナルのワンコインコンサートです。500円で贅沢なひとときをお過ごしください。

●会場＝PLATアートスペース  
●料金＝[全席自由・整理番号付]500円

**3/2 [水]** 14:00 開演

### 『Moment Of My Life たとえば、あなたのその瞬間に寄り添う音楽を。』

山本愛花音(ピアノ・作曲)

**3/16 [水]** 18:30 開演

### 『アゼリア・ツアーへようこそ!～音楽の旅路～』

Quintet Azalea [クインテット・アゼリア]  
西前菜々子(クラリネット)、成田萌(ヴァイオリン)、本間京(ヴァイオリン)、三浦可葉(ヴィオラ)、稲田悠佑(チェロ)

**4/27 [水]** 14:00 開演

### 『歌う魅せる 寄り添うヴァイオリン』

辻純佳(ヴァイオリン)

**5/21 [土]** 17:00 開演

### 『チューバとピアノで誘うファンタジー』

こてまりデュオ 磯谷莉佳(ピアノ)、加藤由依子(チューバ)

### 高校生と創る演劇 出演者募集

公募による高校生出演者とスタッフが、劇場やプロのスタッフとともに上演する演劇の第9弾。今年は演出に川口智子を迎え上演します。

●対象＝2004年4月2日～2007年4月1日生まれで、稽古、公演日11月5日(土)、6日(日)に参加できる方。●定員＝12名程度 ●審査＝5月6日(金)～8日(日)のいずれか ●申込方法＝4月15日(金)17:00までに参加申込書に必要事項を記入の上、窓口持参郵送



20代30代はあんなに悩んだのに、この頃になって「吹っ切れたなあ」と思うことのひとつに、自分の職業があります。

私は俳優からスタートし、追って演出を、やがて脚本を書くようになりました。俳優以外の二つは完全な成り行きで、座付きの演出と作家がやめてしまったから。劇団を続けた意地で引き受けたというだけでした。

学生時代にちょこちょこ書き物をしたことはあったけれど、それを自分の職業にしようと思ったこともなければ、出来ると思ったこともなくて、「劇作家です」と名乗るのもおこがましく気恥ずかしく、ゆえ

に長らく劇作家協会にも入りませんでした(本当は劇作をしたことがある人なら誰でも入れる協会なのですが)。

若い頃というのは、お節介でお説教好きな先輩というのはどこにもいるものです。飲みの席でツツッと隣の席にやってきては、こちらの不安を見透かしたように小さい声で、忌まわしい問いかけをします。

「で、桑原は役者?作家?演出家?そろそろどれかに絞った方がいいんじゃない?」

嗚呼、この「どれかに絞れ」という言葉。どれほど私を悩ませてきたことでしょう。

今になって思えば、その人に私の未来など関係のないのだから、ほっとけ、と返しゃあよかったんです。が、問われた私の目に反発心が宿るのを先輩は目ざとく見抜き、更にいじわるな追い打ちをかけます。

「三足のわらじじゃ、どれも中途半端なままだじゃない?」

いやあ書いて腹が立ってきました。もう顔も思い出せないし、そういう人は一人じゃなかったんですけどね。でも、実際にまだどのジャンルも職業と呼べなかった私には返

## 「わらじ何足あってもよし」

芸術文化アドバイザー

### 桑原裕子

す言葉もなく、中途半端という言葉は長い長い間、胸にグサリと刺さり続けました。

しかし、その呪縛を解いてくれたのは、同じく三足のわらじを履いている人たちの存在でした。いつだったか長塚圭史さんにそのことを相談したら、相変わらずの美声と悠々とした調子で言ってくれたのです。

「全部やりなよ。絞らなくなったらそうすれば良いけど、やれるうちは全部やった方がいい」あの時の胸に広がった安堵感、今も忘れません。圭史さんは私と歳が一つしか違わないのに、なんだ、この揺るぎなさ。



いやまじ、ソー・クール。

もちろん彼は当時すでに売れっ子だったので、実績に基づく自信があるのだろうと思いました。でもそれだけじゃなく、自分で決めたという意志が、なにより輝いて見えたのでした。それ以来、私が逆に若し三足のわらじ後輩から「絞った方がいいですかね?」と相談されたときも、「全部やりなよ」と答えるようにしています。少し、良い声で。

それに絞ろうたって、どうせ頼まれればやっちゃうんだろうし、人に言われて辞められるものでもない気づきました。歳を重ねるにつれ開き直りも腰が据わってきて、不動産屋には「劇作家」と言い、ヘアサロンでは「俳優」と言い(だから失敗しないよね、という圧

を込め)、海外では自分を「ディレクター」などと言ったりして好きに遊んでいます。

昨年の暮れ、私は『徒花に水やり』という舞台に出演していました。

出演者は5人。主宰はどちらも劇団を主宰するMONOの土田英生さんと猫のホテルの千葉雅子さん。そのほかに、田中美里ちゃんと、私、そして……岩松了さん!なんと美里ちゃん以外の出演者4人が全員「三足のわらじ」の人たちでした。

いや、皆さんは映画監督もやるし先生もやるしで、三足どころかたこ足レベルで何足も

持っている先輩たち。ちなみに美里ちゃんも帽子デザイナーをしているので、俳優一足じゃありません。

彼・彼女らをなんと呼べば良いのでしょうか。作家?演出家?その時々で顔を変えるし、それでいい。彼らは自分の肩書きに何がつかうか、さして気にしていないように見えます。

ネットニュースでは「元朝ドラ女優と作演出家の4人」と紹介されました。田中美里を

して今さら元朝ドラ女優もないんですが、ざっくりくるとまあ、そうなるわけです。作演出家が4人も集まるとさぞかし強い個性と我がぶつかり合ったのでは?当然その点がお客様の評判としても話題になったわけですが、実際はなんともほのぼのとした、平和で愉快的な現場でした。何者ともつかぬものたち、という雰囲気妙に居心地良かったんです。

だって岩松了は岩松了。もうそれだけで看板ですよ。『職業=矢沢永吉』みたいな感じで。

だから私も、桑原裕子は桑原裕子。肩書きはご自由にどうぞ、でいこうと思います。

というわけで、芸術文化アドバイザーの桑原裕子を、今年もよろしく願います。

## SUPPORT



知識製造業  
三遠機材株式会社  
http://www.san-en.co.jp



吉野設計研究所  
http://www.440a.co.jp



有限会社 魚伊  
電話 52-5256

グロリアンピアノ地域特約店

白羽楽器 株式会社  
電話 053-464-3015



竹内産婦人科  
産婦人科 婦人科(不妊治療)  
豊橋市新本町23 豊橋市西産婦人科 産科

ケンチク 701  
KURONO ARCHITECT STUDIO  
y.qlo0170@gmail.com

うつ、統合失調症、精神遅滞、発達障害、脳梗塞、人工透析、人工関節など  
豊橋・豊川障害年金相談センター  
初回相談無料 ☎0120-891-498  
豊橋市上野町字上山21-8 アイネスD2 障害年金専門社会保険労務士 竹下英司

看板広告 アラキスタディオ  
豊橋市上伝馬町16 電話52-5586番

本と文具なら  
精文館書店  
TEL.54-2345

なければつくる  
ONOCOM 株式会社オノコム

外科・内科・胃腸科・麻酔科・肛門科  
医療法人栄真会 伊藤医院  
豊橋市小池町字原下35 電話45-5283(代)

創業文政年間  
巖せく宗  
豊橋市新本町40 電話52-5473番

調理と製菓のおいしい資格。  
豊橋調理製菓専門学校  
豊橋市八町通一丁目22-2 TEL53-2809

豊橋銀行協会 (順不同)  
三菱UFJ銀行 みずほ銀行 静岡銀行 名古屋銀行  
三井住友銀行 三井住友信託銀行 清水銀行 第三銀行  
十六銀行 愛知銀行 中京銀行 大垣共立銀行

創業江戸 御茶屋菓子専門店  
岩松園  
御菓子司

西村能舞台  
豊橋市上伝馬町  
代表=西村能二  
Mail=nnbutai@gmail.com

気まぐれコンサート  
事務局/0532-62-9259(小川恵司)

安心・安全な地下駐車場  
パ・ガ500 ソウの親子の電帳が印留  
プラット主ホール・アートスペース公演等へのお客様は  
30分150円を30分100円(上限4時間まで)に割引します。

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・麻酔科  
医療法人 塩之谷整形外科  
理事長 塩之谷 昌  
豊橋市植田町関取54 電話0532-25-2115(代)

豊橋名産 傘あくわ

井上皮フ科クリニック  
診療時間 月・火・木・金 10:00~13:00 16:00~19:00  
土 10:00~14:00 休診日=水・日・祝  
電話0532-55-7007 愛知県豊橋市向山町字畑13-1マイルストーン1F

プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。  
共和印刷株式会社  
豊橋市小池町36番地の1 TEL46-3281 FAX46-3285

整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科  
医療法人 大岩整形外科・皮フ科  
院長 大岩俊久 豊橋市大橋通二丁目115 電話55-2100

伝統的工芸品豊橋筆  
書道用品専門店  
高誠堂  
豊橋市兵服町四拾四番地 電話52-5514

ISO9001 ISO14001 愛知ブランド企業 認証・認定取得  
株式会社 三光製作所  
三光精密工業株式会社  
豊橋市佐藤一丁目12番地の3

sala  
サーラグループ

広告募集

## TICKET CENTER

### チケットの購入・お問合せ

プラットチケットセンター

電話・窓口  
0532-39-3090 [休館日を除く10:00-19:00]  
オンライン  
http://toyohashi-at.jp [24時間受付・要事前登録]

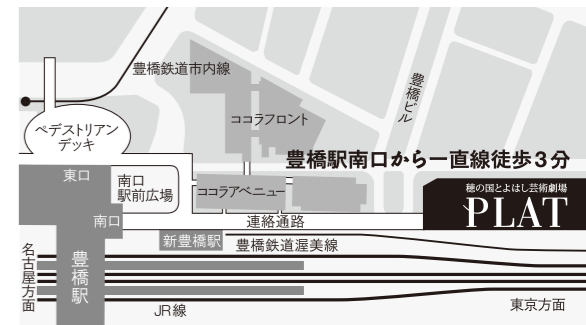


### プラットフレンズ募集 入会金・年会費無料

- 特典
- 1 公演情報をメールでご案内します。
  - 2 インターネットでチケット予約ができます。
  - 3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。
- ※劇場窓口またはホームページから登録いただけます。

### U25・高校生以下割引ご案内

- ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。
- 料金  
U25[25歳以下]:公演ごとに指定する座席の半額  
高校生以下:1,000円
  - 購入方法  
各公演の一般発売初日から取扱い。
  - その他  
本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。  
座席の指定はできません。要・入場時本人確認書類提示。  
一部例外あり。詳細は各公演チラシ・HPにて。



〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地  
電話=0532-39-8810[代表]  
開館=9:00-22:00 休館日=第三月曜・年末・年始。  
第三月曜が祝日の場合はその翌平日。  
豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、  
新豊橋駅(豊橋鉄道渥美線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。  
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、  
お近くの公共駐車場等をご利用ください。

## 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT